

1. 発表方法                      口頭発表・ポスター発表 (どちらかに○)

2. 発表タイトル (日本語) (相模原市の動物相)

岩手県に生息するニホンカモシカ (*Capricornis crispus*) のDNA多型による遺伝的系統解析

3. 発表者氏名 (日本語) (例: ○麻布太郎<sup>1</sup>・相模花子<sup>2</sup>) (発表者に○をつけて下さい。)

○上坂友香理<sup>1</sup>・Eric Tsai<sup>2</sup>・西村貴志<sup>1</sup>・松原和衛<sup>1</sup>

4. 発表者所属 (日本語) (例: 麻布大 獣医<sup>1</sup>・東京農大 農<sup>2</sup>)

岩手大院 農<sup>1</sup>・BiOptic Inc.<sup>2</sup>

5. 発表タイトル (英語) (Fauna of Sagamihara City)

The genetic descent analysis of the Japanese serow (*Capricornis crispus*) living in Iwate prefecture by DNA polymorphism

6. 発表者氏名(英語) (例: ○Taro Azabu<sup>1</sup>・Hanako Sagami<sup>2</sup>) (発表者に○をつけて下さい。)

○Yukari Uesaka<sup>1</sup>・Eric Tsai<sup>2</sup>・Takashi Nishimura<sup>1</sup>・Kazuei Matsubara<sup>1</sup>

7. 発表者所属 (英語) (例: <sup>1</sup>Faculty of Veterinary, Azabu Univ., <sup>2</sup>Faculty of Agriculture, Tokyo Univ. of Agriculture)

<sup>1</sup>Graduate School Faculty of Agriculture, Iwate Univ., <sup>2</sup> BiOptic Inc.

8. 連絡先 E-mail アドレス

a2411001@iwate-u.ac.jp

# 岩手県に生息するニホンカモシカ (*Capricornis crispus*) のDNA多型による遺伝的系統解析

○上坂友香理<sup>1</sup>・Eric Tsai<sup>2</sup>・西村貴志<sup>1</sup>・松原和衛<sup>1</sup>

(岩手大院 農<sup>1</sup>・BiOptic Inc.<sup>2</sup>)

ニホンカモシカ（以下、カモシカ）は岩手県においてはほぼ全域に生息が確認されている。環境省のカモシカの系統に関する提案によると、岩手県のカモシカは「十和田」、「阿仁・八幡平」、「真昼山脈」、「栗駒」、「北上」の5系統に区分されている。一方、岩手県が提案する区分では、馬淵川（平糠側）及び北上川をもって境界とし、それ以西を「奥羽山系地域個体群」、以東を「北上高地地域個体群」の2系統としている。しかしこれらに関する科学的な証明はなされていない。当研究室では、DNAによるカモシカの雌雄判別と個体識別法を開発しており、昨年日本野生動物医学会大会において本法の野外調査における有効性も示唆した。そこで本研究では、特に岩手県内に生息するカモシカの地域個体群の遺伝的背景を本法により解析することを目的とした。

サンプルは過去に研究室で採取した野外糞サンプル、滅失個体サンプル及び、2011年11月から2012年4月の積雪時の踏査により採取した野外糞サンプルを使用した。なお冬期に採取したサンプルは、採取位置にバラツキが出るように踏査を行った。西村ら（2011）の方法に従って組織及び糞からDNAを抽出・精製し、8座位マイクロサテライトマーカを用いたフラグメント解析により個体識別を行い、その結果をGENEPOP on the webにより系統解析した。複数の多型が確認されたことから、現在も実験を継続している。また、アメロゲニン遺伝子を用いて雌雄判別を行い、およそその性比も検討している。さらに、DNA多型解析のランニングコスト低減のため、QSEP<sup>TM</sup>新型DNAアナライザー（BiOptic inc.社：Qsep100 dna-CE）による検討を行った。アリルの大きさに一定のズレが生じるため、更なる検討が必要ではあるが、条件を整えることにより利用可能である。